

●尼寺という新たなフィールドに密着し、尼僧や信徒などの「神・鬼・祖先」に関する行為を考察。ウルフラのモデルとは異なる観念を見出し提示した意欲的論考。

中国江南農村の神・鬼・祖先

浙江省尼寺の人類学的研究

銭丹霞著

漢民族の宗教に関する社会人類学的研究は主に台湾、香港、海外の華僑漢民族社会を中心に、一九七〇年代から行われてきた。欧米、日本、そして台湾など自文化を対象とする「本土」人類学者により行われた研究は殊に漢民族における神、祖先、「鬼」などの話題をめぐり、活発に展開され、大きな成果を挙げてきた。A・P・ウルフ〔1974〕は神、祖先、鬼という二つの分析枠組を提起し、多くの議論を呼び起こした。……いずれも台湾や香港における実地調査をもとにした漢民族の神々や祖先、「鬼」に関する研究である。

しかし、これらを含む従来の漢民族の宗教に関する研究において、いくつかの偏りが見られる。第一に、調査地、研究対象が台湾、香港、華南の福建省、海外の華僑社会を中心に展開してきたため、地域差が大きい中国大陸における漢民族の宗教、民間信仰の実態は手つかずの状態にある。……第二に、漢民族、殊に大陸における漢民族の宗教や民間信仰に関する従来の研究は、文献記録が中心となつて、草の根レベルの人々の考え方や、行為に関心が払われなかったことが少なくない。第三に、寺院と廟が共存する漢民族社会に関して、民間信仰の場である廟をめぐって行われた調査が盛んである一方、仏教寺院における人類学的調査は少ない。……

本書は、筆者が中国華中農村の一尼寺に住み込み、信者たちの日常生活と祭祀活動を綿密に記録したものである。個人志向的な求道より、世俗的ニーズに積極的に応じる、開かれた僧尼の姿勢には寺院の復興を進める熱意が感じられる。一方、仏教儀礼がもつぱら祖先、「鬼」の祭祀・追善儀礼となつたことは、日常生活に定着している仏教思想の一端で、人々の神、祖先、「鬼」に関する観念を考える際に重要な示唆としても考えられる。そうした今日の中国仏教のあり方を詳しく紹介していきたいと思う。（序論より）

序論

第一章 象山県における寺庵と廟

象山県概況／象山県における仏教と祖先祭祀の復興／《死者》の戸籍を管理する廟とその祭祀

第二章 尼寺の日常生活

S村概況と尼寺／尼僧と《信者》／尼寺の一日と生活

第三章 尼寺の仏・《菩薩》と諸儀礼

尼寺に祀られる諸仏・《菩薩》／仏教経典と《経》／尼寺で行う儀礼と儀礼用の経典／年間行う大小の行事（二〇〇三年の事例）／相談役としての尼寺の仏・《菩薩》

第四章 尼寺に祀られる祖先と《人客》

尼寺の位牌について／放蒙山儀礼から見る祖先と《人客》／祀るものと祀られるもの／人々が語る祖先と《人客》

第五章 家庭に祀られる祖先と《人客》

——丹城街道の事例
地方志から見る祖先と《人客》の祭祀／七月半における祖先と《人客》の祭祀

第六章 寺院の《菩薩》と廟のそれとの比較

——丹城街道の事例
寺院の《菩薩》／廟の《菩薩》／《菩薩》から見た寺院と廟の機能

結語 参照資料 参考文献 索引

体裁

・A5判・上製・カバー
・二八八頁

定価

・五二五〇円
（本体五〇〇〇円）

注 文 書	
流通センター取扱品	
発行	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	五二五〇円
部	

地方出版

銭丹霞著

中国江南農村の神・鬼・祖先

浙江省尼寺の人類学的研究

ISBN978-4-89489-112-8 C3039 ¥5000E

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14-9
電話〇三(三八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所

お電話

月 日